

デジタルデバイト・情報の格差と所得の格差

御園生 純（法政大学非常勤講師）

「デジタルデバイト」という言葉は、日本では「情報格差」と約されています。この言葉が出始めた頃は、高度情報化によって、大都市圏と地方との情報へのアクセス度と収集量に著しい格差が生じることによる国内での格差をさすものでした。

最近ではアメリカ商務省の報告書「ネットワークから抜け落ちる：デジタルデバイトを明義する」（一九九年）はデジタルデバイトの新しい定義として、民族・年収・学歴などの社会的階層によって情報にアクセスする能力に差が生じ、それらが社会参加の機会を制約していることを指摘しています。

日本でデジタルデバイトという単語が広く知られるようになったのは、二〇〇〇年七月の九州・沖縄サミット」からです。

サミットで採択された「グローバルな情報化に関する沖縄憲章（二憲章）」では、情報化の進展が先進国と発展途上国の間の経済社会的格差を増大させ、それらが地球規模での政治的不安定を引き起こす可能性を指摘し、デジタルデバイトの解消のための国際的な協調体制の構築を提唱するものでした。

米国商務省の報告書がアメリカ内部における社会階層間の格差を指摘しているのにたいし、沖縄憲章は国際的な国家間の格差増大の解消を謳っています。デジタルデバイトは、このような二つの格差を含んでいます。今いわれているデジタルデバイト問題は、世界的には、ITが発達した国・地域と未発達な国家・地域との間で、また国内的にはIT投資が可能な富裕層や情報感度が高い年齢層と貧困層や高齢者などとの間の問題です。

情報アクセス度と所得格差

では、デジタルデバイトは、どのような形であらわれているでしょうか。社会的格差の助長という観点から検討してみます。

二〇〇〇年一月中旬に、日経産業消費研究所が首都圏の二〇～六〇代の消費者モニター七〇〇人を対象におこなった調査では、次のような結果が出ています。

「デジタル化時代に自分についていけると思う」という設問については、男性が「当てはまる」が二三・八％に対し、女性は三四・〇％、「まあ当てはまる」という回答は男性が四一・三％に対し女性は七・六％です。「当てはまる」人の比率は男女間で一五ポイント以上も差があり、男女間の格差が増大していることがわかります。

年齢別では男性では五〇代以下のすべての年齢で、二〇％以上が「当てはまる」と答えたのに対し、（特）二〇代は三〇％を超えている（六〇代では一〇％台半ば、女性では五〇代が一・一％、二〇代と四〇代では約一〇％でしたが、三〇代、六〇代は五％以下という結果です。

これらの解答を見ると、情報化の進展が、社会的に不利益をこうむりやすい社会階層にたいして精神的な圧迫を強いていることがよくわかります。また、IT投資が可能な富裕

層や情報感度が高い年齢層と貧困層や高齢者などとの間で格差があることも表しています。米商務省報告では、年収七万五千ドル以上のヒスパニック系世帯のインターネット利用度が年収三万五千ドル～七万五千ドルの白人系世帯より高いことを指摘しています。所得階層がそのまま情報ネットワークへのアクセス度に反映していること、所得による不平等が進行していることを表しています。

こうした調査や報告からいえることは、情報化社会が階層間の所得格差をさらに広げる力となること、社会の情報化があたらしい不平等（階層）を生み出すことです。

持たざる国と豊かな国の固定化

次にデジタルデバイトのもうひとつの側面である、国家間における情報格差を見てみましょう。

グローバルなネットワークといわれるインターネットでさえ、その普及率は世界的に見ると明らかな偏りがあります。米国²⁵⁾社の九九年のインターネット普及率調査によると、世界のインターネット利用者人口は北米地区が四九・四％、ヨーロッパが二六・一％で、じつに七五％以上が先進諸国によって占められています。また世界でインターネット普及率が一〇％以上の国は二五カ国ですが、南アジア地区ではシンガポール（一四・七％）だけです。人口で見ると南アジアには二三・五％が集中しているにもかかわらず、この地区全体でのインターネット普及率は〇・〇〇四％という調査結果もあります。

先進科学技術のもたらす情報の恩恵を先進国が占有し、途上諸国が従来の経済的貧困国のみならず、情報化社会においてもさらに貧困階層として固定化されてくるという、地球規模での「持つもの」と「持たざるもの」の固定化　あたらしい南北関係の固定化　が見えてきます。

現代情報化社会は、地球規模でのネットワーク網の拡大による人種・国家を超えた相互交流や、物理的制約を解消するコミュニケーションが可能になるといふ謳い文句の陰には、デジタルデバイトというあたらしい差別と疎外の構図が、地球規模で進行している現実をしっかりと見ることが必要です。

参考・『デジタルデバイトとは何か』木村忠正・岩波書店